

シシリー・メアリー・バーカーの 生涯を尋ねて

井村 淳一



シシリー・メアリー・バーカーは、1895年6月28日に、ロンドン南部の町、クロイドンにて生まれた。1907年、シシリーが9歳の時、家族はクロイドンのザ・ウォルドロンズ(The Waldrons)通りの17番地に引越すが、後、1924年に同じ通りの23番地に引越し、シシリーは生涯のほとんどを姉と母と共にここで過ごす。だが、姉と母が他界した1961年に、一人暮らしにもっと適した、クロイドンのドゥップス・アベニュー(Duppas Avenue)6番地に引越すが、体調が徐々に崩れて行き、イギリス南部、サセックス州の町、ストリングトン(Storrington)にて過ごした後、1973年2月16日、77歳で海辺町、ワーズング(Worthing)の病院にて他界する。そしてシシリーの遺体は火葬され、お葬式の後、彼女の遺灰はストリングトンのセント・メリー教会の敷地に撒かれた。

幼い頃、てんかんの発作に悩まされたシシリーは、病弱な生涯を過ごした。そのためか、キリスト教に信仰深い家族から大切に育てられるが、学校に通うことができず、家で両親から教育を受けた。幼い頃は、一人で過ごす時間が多く、本を読んだり絵を描いたりして過ごしたそうだ。種子の供給会社を営業していたシシリーの父は、趣味で画家をしており、シシリーの画家としての能力に早くから気付いていた。父は、1908年、当時13歳だった彼女をクロイドン芸術協会の芸術学校に入学させる。シシリーは、1918年までの10年間、そのクロイドン芸術学校で絵画の教育を受けるが、

16歳の時、彼女の才能が評価され、技術協会の永久会員として受け入れられる。シシリーは、当時、最も若い永久会員だったそうだ。シシリーは、同芸術学校で教師も勤めている。

シシリーは自然を描くことを好み、ラファエロ前派に深く影響を受けたといわれている。シシリーは頻繁にサセックスのストリングトンやコンウォールに住む知り合いや家族を訪問し自然をスケッチしたといわれている。特にシシリーは、チャールズ・キングズリーの『水の子たち』の挿絵を描いて有名になったマーガレット・タラントと親友で、頻繁に彼女が住むサリー州の町ガムシャル(Gomshall)に訪れ共にスケッチ旅行に出掛けたといわれている。

1911年、シシリーが15歳の時、父がラファエロ・タックという印刷会社にシシリーの絵を持って行き、それがポストカードとして販売されるようになる。それをきっかけに、シシリーは、雑誌や本の挿絵、絵葉書や誕生カードの絵などを描き画家として収入を得るようになる。

シシリーが17歳になった時、姉と母を取り残し父が突然、他界してしまう。それが理由で家族は経済的困難に陥ってしまう。どうにか生活を取り戻そうと、シシリーの姉、ドロシーは保育園を開き、シシリーは前よ

りも必死になって画家活動を行い始める。1918年、姉の保育園の園児をモデルにして描いた様々な妖精とエルフの絵葉書を製作販売する。当時のメアリー女王がそれを好んで利用したことがきっかけで、シシリーの絵葉書コレクションが「シシリー・メアリー・バーカーの妖精とエルフの絵葉書コレクション」という本として好評販売されるようになる。

そして1923年に、シシリーは24の作品をまとめた「春のフラワー・フェアリー」という本をブラッキーという出版社から出版する。第一次世界大戦の後、希望と喜びを与えてくれる物を求めていた一般の間で、シシリーの「春のフラワー・フェアリー」は大ヒットする。フラワー・フェアリーの人気は、

当時、ピーターパンが人気であったということが理由でもあると言われている。これをきっかけに、シシリーは引き続き7冊のフラワー・フェアリーの本をシリーズとして出版する。

シシリーは、姉の保育園から適した園児をモデルとして選び、その子がどのフラワー・フェアリーになるか、その子の面影から選び、適応する花を持たせて妖精としてのポーズをとらせ、フラワー・フェアリーの絵を描いたといわれている。また、花々を正確に描くため、わざわざロンドンの植物園、キュー・ガーデンまで足を運び、その専門家から色々と説明を受けながら花々を研究したそうだ。さらに、シシリーはモデルになった子供たちに着せる妖精の衣装も自ら作っ

クロイドン Croydon シシリーが生まれ育った街



①シシリーの幼少を過ごした場所に（現在はシシリーの生家とは別のアパートが建つ）記念プレートが。②現在のクロイドン、ザウォルドロンズ通りの住宅街。③1961年からシシリーが一人暮らししたドゥップスアベニュー。④クロイドン庁舎。付属の美術館では、シシリーの初版本など貴重なコレクションを有する。⑤いまなお、妖精が済んでいるクロイドン郊外の小道。